



東地中海地域ニュース

イスラエル：国防軍によるアラブ人の土地の収用 (10月9日付「ハアレツ」紙)

1. 9月24日、イスラエル国防軍（IDF）は、東エルサレム及びマアレ・アドゥミム入植地の間にある4つのアラブ人村（アブ・ディス、アラブ・アルサワフラ、ネビ・ムサ、タルヒン・アルハマル）の土地約1100ドゥナム（注：1ドゥナム約1000平米）を収容する命令を出した。同地は、東エルサレムとエリコを結ぶ新たなパレスチナの道路として使用される予定。同道路の建設は、イスラエルに国際社会が批判するE-1地区における建設を可能にする可能性がある。
2. E-1地区は東エルサレムとマアレ・アドゥミム入植地の間の地域を指し、マアレ・アドゥミム市に属する。数年前、イスラエルは同地区に約3500軒の住居・工業団地を含むユダヤ人地区建設計画（E-1計画）を発表したが、パレスチナ及び国際社会は、同建設により西岸領土の連続性が分断され、東エルサレムがユダヤ人地区に囲まれ、将来のパレスチナ国家の首都の発展を妨げるとして反対した。2004年、イスラエルは米国の圧力を受け、ユダヤ人地区建設計画を凍結した。
3. しかしながらイスラエルは、E-1地区における西岸地区警察本部の建設（注：東エルサレムにある同本部をE-1地区に移す計画）を続けた。この継続の背景には、警察本部が軍基地と同様、最終地位交渉を予断する性質のものではなく、移動可能な治安施設であるとのイスラエルの見解がある。9月28日、ディヒター公安相は、2007年末までに西岸地区警察本部がE-1地区に移転されると述べた。
4. 上記の東エルサレム・エリコ間の道路建設計画に関し、IDF報道官は、同地域周辺での分離バリア建設により、ベツレヘム地域・西岸南部とエリコ・ヨルダン渓谷を結ぶ回廊の建設の必要性が高まったと述べ、同道路によりパレスチナ人の生活が著しく改善されるとした。国防省筋は、被収用地はE-1地区と関係なく、1100ドゥナムのうち225ドゥナムが私有地で残りが国有地であると述べた。分離バリア問題担当のラモン副首相は、同命令について知らされていないと述べた。
5. 新道路は、2005年にマアレ・アドゥミム市が提案した道路に沿って建設される予定で、そのルートは「パレスチナ居住地区間の自由な交通の確保」の為であり、同地区に建設されるユダヤ人地区は、マアレ・アドゥミムとエルサレムが結ばれることを約束するものである。